



Title	マルタ語の「無動詞文」に関する一考察
Author(s)	依田, 純和
Citation	アラブ・イスラム研究. 2022, 20, p. 83-104
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106158
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

マルタ語の「無動詞文」に関する一考察

依 田 純 和

A Study on the verbless sentence of Maltese

Sumikazu YODA

抜 刷

「アラブ・イスラム研究」第20号 2022年

Journal of Arabic and Islamic Studies

مجلة الدراسات العربية والإسلامية

Vol. 20, 2022

マルタ語の「無動詞文」に関する一考察

依田 純和*

A Study on the verbless sentence of Maltese

In many Semitic languages, including Maltese and Arabic, we attest a sentence structure consisting of a subject and its predicate without verb, which is called “verbless sentence” in this article. This structure is used when the predicate refers to the nature or the continuous situation of the subject, not to the action. Whilst the standard word order of this structure is Subject + Predicate, in some cases there is another pattern with Predicate + Subject, which usually is referred to as “existential sentence”. Being a language from the same branch of Arabic, Maltese shares many characteristics of the verbless sentence with Arabic, but many different phenomena are attested. The purpose of this article is to show the basic structure of those two types of the verbless sentence.

1. 無動詞文

マルタ語には述語が名詞句・形容詞句・前置詞句・副詞句からなり、動詞を用いない文構造が存在する。述語は主語の動作ではなく性質や（継続している）状態を表す。この構造はセム諸語で広く見られる現象で、本論考ではこれを「無動詞文」と呼ぶ¹⁾。

マルタ語はアラビア語²⁾と同系統の言語なので、無動詞文の構造はアラビア語と共通する部分が多いものの、性質を異にするところが多い。そこで本論考ではマルタ語の無動詞文の構造とその表現する内容を明らかにすることを試みる。

* 大阪大学人文学研究科 准教授

- 1) Nöldeke (2001) 245 はシリア語の同様の構造を Then nominal sentence として the sentence which has a Substantive, and Adjective, or an Adverbial expression as a predicate と定義している。また、Joüon & Muraoka (2018) 528 は聖書ヘブライ語について Nominal clause を every clause the predicate of which is a noun or the equivalent of a noun, i.e. a participle, a preposition with a noun or a pronoun, etc. と定義している。同様にアッカド語：Huehnergard (2011) 12 “Verbless Clauses. - Akkadian has no verb ‘to be’. Such clauses are expressed simply by juxtaposing the subject and the predicate.”、アラビア語：Fischer (2002) 189 は Nominal Sentences という項目を立て、述語について “The predicate of a nominal sentence may be a noun, pronoun, prepositional phrase, or adverb.” としている。このように多くの場合は「名詞文」に相当する用語が用いられるが、本論考は「動詞が含まれない」ことを主眼として議論を進めるので「無動詞文」とした。また、無動詞文は発話時点での主語の性質や（継続的な）状態を述べるもので、英語の be 動詞に相当する動詞 kien / jkun を用いて表現する過去にあった状況、未来に起こりうる状況を表す文は議論の対象外とする。
- 2) ここでは「文語アラビア語」「口語アラビア語」を含む。また本稿では現代標準アラビア語、古典アラビア語などを厳密に区別せず「文語アラビア語」とする。

以下では文の構成要素の違いを中心に無動詞文を分類していく。本稿はあくまでマルタ語の無動詞文の様態を論ずることを目的とするので、アラビア語との比較は必要最小限とする。

凡例

グロスとは簡略化したものとした。否定接尾辞、接尾代名詞と自由形態素の境界を示すために = を用いたが、これは正書法では表記されない。

例文の典拠については、① {web...} としたものはインターネット上にあるもので、巻末に URL を示した。② {Korpus} としたものはインターネット上のマルタ語コーパス Korpus Malt (参考文献を見よ) による。③ {...} のみ示したものは著者が作成しネイティヴチェックを経たものである。

2. マルタ語の無動詞文

2.1. 先行研究など

これまで行われてきた無動詞文に関する研究は、無動詞文自体を所与のものとして扱い、主に繫辞の性質を論じる文脈や³⁾、分詞の使用と関連付けて部分的に論じられるなどであり⁴⁾、それ自体の構成要素や文型などについての研究は管見の限り存在しない⁵⁾。

以下ではこのような無動詞文の性質を、その構成要素や存在文の文型の分析を通じて解明していく。

本論考で言う「無動詞文」は、前節で示したように「主語」と「述語」を構成要素とし、定形動詞を用いない文を指すのでいわゆる「存在文」も議論に含まれる。

2.2. 無動詞文の構造

無動詞文は主語と述語の語順によって 2 種類ある。

- (1) 主語－述語 (2.3. を見よ)
- (2) 述語－主語 (= 存在文) (2.4. を見よ)

以下では上記の 2 種類の無動詞文ごとに文型を整理し、その特徴を分析する。

2.3. 主語－述語の語順の無動詞文

このタイプの無動詞文は、構成する主語と述語には以下のようなものがある。

3) Borg (1988) 265-319, Krier (1975).

4) Vanhove (1993) ff. 314.

5) なお、2.4.1 で考察する疑似動詞を使った文については Comrie (1982), Peterson (2009) などがある。

2.3.1. 主語

「主語－述語」の語順の無動詞文の主語は限定名詞類に限られる。「限定名詞類」とは、代名詞（独立人称代名詞・指示代名詞）、固有名詞、定冠詞の付いた名詞、接尾代名詞の付いた名詞、関係節、接続詞 *li*⁶⁾ 節のいずれかである（以下の例文では太字で示した）。

独立人称代名詞

(1) **Jiena** student. {-}

I student

私は学生です。

指示代名詞

(2) **Dan** hu David. {-}

this he David.

こちらはデイヴィッドです。

固有名詞

(3) **Martin** hu għalliem. {-}

Martin he teacher

マルティンは教師です。

定冠詞の付いた名詞

(4) **Il-Kostituzzjoni** hija liġi suprema u ... {web1}

the-constitution she law supreme and ...

憲法は最高の法で・・・

接尾代名詞の付いた名詞

(5) **Missier=ha** hawn. {-}

father=her here

彼女のお父さんはここにいます。

関係節

(6) **Kulma** rrid spjegazzjoni onesta. {-}

all-what I-want explanation honest

私の欲しいのは真摯な説明です。

6) 英語の *that* 「～ということ」に相当する接続詞。

接続詞 li 節

(7) **Li tistudja⁷⁾ l-Malti hu importanti. {-}**

that you (sg.) the-Maltese he important

マルタ語を学ぶことは重要です。

例文 (2), (3), (7) では述語の前に **hu** (独立人称代名詞3.m.sg.) が、(4) では **hija** (独立人称代名詞3.f.sg.) が挿入されている。これはアラビア語でいう「分離代名詞⁸⁾」に相当するものである。本稿でも用語として「分離代名詞」を継承するが、その用法はアラビア語とは異なる点がある。この分離代名詞も述語の一部と考えることもできるが、同一の文でも分離代名詞の使用が恣意的なこともあるので、本論考では述語とは別のものとして扱う。分離代名詞の使用については、3.1.3. で述べる。

2.3.2. 述語

「主語が限定名詞の無動詞文」の述語は、代名詞 (独立人称代名詞・指示代名詞)、固有名詞、名詞、関係節、接続詞 li 節、形容詞類 (形容詞・分詞)、前置詞句、副詞のいずれかである (以下の例文では太字で示した)。

独立人称代名詞

(8) **Dan hu jiena. {web2}**

this he I

これは私です。

指示代名詞

(9) **Ir- rizultat ta=l- votazzjoni hu dan. {Korpus}**

the-result of=the-voting he this

投票結果はこれです。

固有名詞

(10) **Wiehed mi=t-tliet azzjonisti tagh=ha hu David Gonzi. {Korpus}**

one from=the-three shareholders of=it (f.) he David Gonzi.

その3人の株主の一人がデイヴィッド・ゴンツィです。

名詞 (非限定)

(3) **Martin hu ghalliem. {-}**

Martin he teacher

マルティンは教師です。

7) *tidsudja* は未完了形2人称単数の活用形。マルタ語では主語を特定しない一般的な行為を表すのに2人称単数形用いられる。

8) 主語と述語の境界を示す目的で挿入されるものである (アラビア語で *ضمير الفصل*)。

名詞（限定名詞）

- (11) Il-Gvern hu s-surmast ta=l-gwerra. {web3}
the-government he the-mastermind of=the-war
政府は戦争の首謀者です。

- (12) Din omm=i Becky {web4}
this (f.) mother=my Becky
こちらは母のベッキーです。

関係節・li 節

- (13) Dak hu kulma nista' nghid fuq=u. {web5}
that he everything-that I-can I-say about=it (m.)
これがそれについて私が言えることの全てです。

- (14) Dak li nixtieq. {Korpus}
that (m.) that I want
それが私の望むことです。

形容詞

- (15) Jiena kuntent f'hajt=i. {web6}
I satisfied in-life=my
私は自分の人生に満足しています。

前置詞句

述語が前置詞句の場合は、主語が前置詞の意味が表す状態に「いる・ある」ことを表す。

- (16) Jiena bi=l-ġuh. {-}
I with=the-hunger
私は空腹です。

- (17) Dan tiegh=ek. {-}
this of=you (sg.)
これはあなたのものです。

副詞

述語となる副詞は実質的に hawn「ここ」、hemm「あそこ」など場所を表すものに限られる。

(5) Missierha hawn. {-}

father-her here

彼女のお父さんはここにいます。

特に述語が場所を表す前置詞句・(場所を表す) 副詞の場合は「A は B にいる・ある。」を表す。

関係詞

(18) Jiena li ghamilt l-ižball, mhux it-tifla. {Korpus}

I who I-did the-mistake, not the-daughter

私が間違えた者だ、娘ではありません。

これは分裂文ではない。分裂文は Jiena hu li ... [I he who...] のように分離代名詞を含む。なお、本論考では分裂文は扱わない。

2.3.3. 分離代名詞の分布

マルタ語の無動詞文の議論では、分離代名詞の使用法については深い議論がなされておらず、また規範文法・記述文法でもこの問題について厳密な規定はなされていない⁹⁾。その中で Ambros (1998) 68-69 は例文を挙げつつ比較的詳細に述べているが¹⁰⁾、不確定な部分もある。以下では主語および述語を構成する要素の組み合わせごとに分離代名詞の分布を調査し、表 1 に結果をまとめた¹¹⁾。ここでは縦軸は主語、横軸は述語 ([A] 人称代名詞 [B] 指示代名詞 [C] 固有名詞 [D] 定冠詞無し名詞 [E] 定冠詞付き名詞・接尾代名詞付き名詞 [F] 形容詞類 [G] 前置詞句 [H]

9) Satcliffe (1936) 180 では “The pronouns are regularly used as a verbal copula.” (ここで言う pronouns は分離代名詞を示す) と述べるのみで、使用しない状況についての言及はない。Aquilina (1966) 40 では “Because personal pronouns have also a verbal function, they can be added after the subject to which they refer. This is often done either redundantly or for emphasis. They are left out when no emphasis is intended.” とあり、その使用は余剰的または強調のためである、と述べるにとどめる。Borg & Azzopardi-Alexander (1997) 49-53 で無動詞文について触れているが、分離代名詞の使用については決定的な結論を導き出していない。

10) (1) Ist hier das Subjekt A ein Personalpronomen, dann wird diesem das Prädikatsnomen B direct nachgesetzt. (主語 A が人称代名詞のとき、述語の名詞 B は主語 A に直接後置される。) (2) Ist A ein Substantive oder ein Demonstrativpronomen, dann kann zwar ebenso verfahren werden. (A が名詞または指示代名詞の時も(1)と同様の方法が可能である。) (3) Viel häufiger wird in diesem Falle jedoch zwischen Subjekt und Prädikat das **Personalpronomen eingeschoben**... (太字原文ママ)。((2)の場合はしかしかなり頻繁に主語と述語の間に**人称代名詞が挿入される**。)) (4) Kaum je verzichtet wird auf das Koppula-Pronomen, wenn A und B beide determiniert sind. (A, B 共に限定されている場合、繫辞代名詞(= (3)の人称代名詞)が省略されることはほとんどない。) 和訳は筆者(部分的な補筆を伴う)による。また、本文では例文が示されているがここでは省略。

11) 実際には分離代名詞の使用にはゆれがあり、強調の具合(脚注8での Aquilina (1966)での説明)、話者の方言(Borg (1988) 268では2つの例文が非文であることに関して「少なくとも私の方言では(ghall-inqas fid-djalett tieghi)」と断り書きをしている)、文体(特に書き言葉と話し言葉の違い)によっても差異が生じるようなので、ここでの結果もあくまで実例と依田が調査の対象としているインフォーマントの(il-Hamrun 出身)情報に基づくものである。

副詞句 [I] 関係節・li 節)を示す。縦軸と横軸の組み合わせで分離代名詞の使用が義務的な場合は○、用いられない場合は×を記した。使用が恣意的な場合は○×とした。なお、N は文が確認できなかった組み合わせを示す。また、各組合せの例文を表2で示した。以下の表は、同一の文で分離代名詞が使用できるかどうかではなく(そのようなペアもあるが)、主眼は個々の主語と述語の組み合わせにおいて分離代名詞が使用できるかを調査したものである。

表1：分離代名詞の分布1

述語 主語	[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]
[1] 人称代名詞	×	N	×	×	○×	×	×	×	×
[2] 指示代名詞	○	○	○	○	○×	○×	×	N	○×
[3] 固有名詞	N	N	N	○×	○×	○×	○×	×	○
[4] 名詞 ¹²⁾	N	○	○	○	○×	○×	○	×	○×
[5] 関係節	N	○×	○	○	○×	○×	○×	N	○
[6] li 節	N	N	N	○	○×	○×	N	N	○

表2：分離代名詞の分布2 (詳細)

以下の表ではスペースの都合からグロスを [] 内に示す。

主語が人称代名詞		
[1-A]	×	例文(1) Jiena student.
[1-B]	N	
[1-C]	×	Jiena David. {-} [I David] 私はデイヴィッドです。
[1-D]	×	Jiena student. {-} [I student] 私は学生です。
[1-E]	○	Jiena hu l-hobż tal-hajja. {web7} [I he the-bread of-the-life] 私は命のパンです。
	×	Jiena l-kittieb. {Korpus} [I the-writer] 私はその作家です ¹³⁾ 。
[1-F]	×	例文(15) Jiena kuntent f'hajt=i.
[1-G]	×	例文(16) Jiena bi=l-guħ.
[1-H]	×	Jiena hawn. {-} [I here] 私はここです。
[1-I]	×	例文(18) Jiena li għamilt l-iżball, mhux it-tifla.
主語が指示代名詞		
[2-A]	○	例文(8) Dan jiena.
[2-B]	○	Dak hu dak li nista' nirrapporta. {Korpus} [that he that which I-can

12) 定冠詞の付いた名詞(指示形容詞が付く場合を含む)、接尾代名詞の付いた名詞。名詞句として限定的なニュアンスを帯びる場合は非限定名詞も主語に立つことができる(例文(10))。

13) この例文のように述語が1語の場合は分離代名詞を使用しない(*Jina hu l-kittieb.は非文)が、上の文のように述語に修飾要素が付く場合は分離代名詞の使用が可能である。他にも「Jiena (hu) l-awtur ta' dak il-ktieb {-} [I (he) the-author of that the-book] 私はあの本の著者です。」

		report] それは私が報告できることです。
[2-C]	○	例文(2) Dan hu David.
[2-D]	○	Dak hu David. {-} [that he David] あれはデイヴィドです。
[2-E]	○	Dan hu l-ewwel pass biex nikkompetu. {web8} [this he the-first step to we-compete] これが私達の戦いの第1歩です。
	×	例文(12) Din omm=i Becky.
[2-F]	○	Dan hu importanti hafna. {web9} [this he important very] これはとても重要です。
	×	Dan importanti hafna. {Korpus} [this important very] これはとても重要です。
[2-G]	×	例文(17) Dan tieghek.
[2-H]	N	
[2-I]	○	例文(13) Dak hu kulma nista' nghid fuq=u.
	×	例文(14) Dak li nixtieq.
主語が固有名詞		
[3-A]	N	
[3-B]	N	
[3-C]	N	
[3-D]	○	例文(3) Martin hu għalliem.
	×	Martin għalliem. {-} [Martin teacher] マルティンは教師です。
[3-E]	○	Abela hu l-bniedem ideali. {web10} [Abela he the-human-being ideal] アベラは理想的な人物です。
	×	Abela l-bniedem ideali. {-} [Abela the-human-being ideal] アベラは理想的な人物です。
[3-F]	○	Is-Sir Abela hu differenti minn għalliema oħra. {web11} [the-sir Abela he different from teachers other (pl.)] アベラ氏はほかの教師たちとは違います。
	×	Is-Sir Abela differenti minn għalliema oħra. {-} [the-sir Abela he different from teachers other (pl.)] アベラ氏はほかの教師たちとは違います。
[3-G]	○	Il-Mulej hu mieghek. {-} [the Lord he with-you (sg.)] 主はあなたと共にいます。
	×	Il-Mulej mieghek. {web12} [the Lord he with-you (sg.)] 主はあなたと共にいます。
[3-H]	×	David hawn. {-} [David here] デイヴィドはここです。
[3-I]	○	David hu li kiteb din l-ittra. {-} [David he who he-wrote this (f.) the-letter] デイヴィドがこの手紙を書いた者です。
主語が限定名詞		

[4-A]	N	
[4-B]	○	例文(9) Ir- riżultat ta=l-votazzjoni hu dan.
[4-C]	○	例文(10) Wiehed mi=t-tliet azzjonisti tagħ=ha hu David Gonzi.
[4-D]	○	例文(4) Il-Kostituzzjoni hija ligi suprema u ...
[4-E]	○ ×	例文(11) Il-Gvern hu s-surmast ta=l-gwerra. Il-Gvern is-surmast tal-gwerra {-} [the-government the-mastermind of=the-war] 政府は戦争の首謀者です。
[4-F]	○ ×	Il-lehen hu importanti. {web13} [the-voice (he) important] その声は重要だ。 Il-lehen importanti. {-} [the-voice important] その声は重要です。
[4-G]	○	Il-Milied hu għal kulhadd. {web14} [the-Christmas he for everyone] クリスマスはみんなのためにあります。
[4-H]	×	連文(5) Missier=ha hawn.
[4-I]	○ ×	L-ewwel haġa li xtaqt ngħid=l=ek hija li l-papa kell=u qalb=u ta=d-deheb {Grech (2014) 18} [the-fiest thing which I-wanted I-say=to=you (sg.) she that the-papa he=had heart=his of=the-gold] 最初に言いたいことはあなたのお父さんは黄金の心を持っていた、と言うことです L-importanti li tkun komda ¹⁴⁾ . {Grech (2014) 17} [the-important that you (sg.)-will-be comfortable] 大事なことはあなたが心地よいということです。
主語が関係節		
[5-A]	N	
[5-B]	○ ×	Li rrid ngħid=l=u huwa dan. {-} [what I-want I-say=to=him he this (m.)] 私が彼に言いたいことはこれです。 Li rrid ngħid=l=u dan. {-} [what I-want I-say=to=him he this (m.)] 私が彼に言いたいことはこれです。
[5-C]	○	Li kiteb dan hu Martin. {-} [who he-wrote this (m.) he Martin] これを書いたのはマルティンです。
[5-D]	○	例文(6) Kulma rrid spjegazzjoni onesta.
[5-E]	○ ×	Li rrid huwa protezzjoni ta=l-familja tiegħ=i. {Korpus} [what I-want he protection of=the-family of=me] 私が望むのは私の家族を守ることです。 Li rrid protezzjoni tal-familja tiegħi. {-} [what I-want protection

14) L-importanti は形容詞に定冠詞を付けて名詞化したもので、文法的には男性単数扱いとなるので分離代名詞は hu となる：「L-importanti hu li dak li jigi maqbul jigi attwat. {web15} [the-important he that that which it-comes accepted it-comes carried-out] 重要なことは受け入れられたことが実行されることだ」。

		of=the-family of=me] 私が望むのは私の家族を守ることです。
[5-F]	○ ×	Li jghid Martin hu diffiċli nifhm=u. {-} [what he-says Martin he difficult I inderstand=it (m.)] マルティンが言うことは理解しがたいです。 Li jghid Martin diffiċli nifhm=u. {-} [what he-says Martin difficult I inderstand=it (m.)] マルティンが言うことは理解しがたいです。
[5-G]	○ ×	Li ta=ni dak ir-raġel hu tiegħ=i. {-} [what he-gave=me that the-man he of=me] 彼がくれたものは私のものです。 Li ta=ni dak ir-raġel tiegħ=i. {-} [what he-gave=me that the-man of=me] 彼がくれたものは私のものです。
[5-H]	N	
[5-I]	○	Li rrid hu li ma jersaq=x lejn dar=i. {-} [what I-want he that NEG he-gets close=NEG towards house=my] 私が望むことは彼が私の家に近づかないことです。
主語が li 節		
[6-A]	N	
[6-B]	N	
[6-C]	N	
[6-D]	○	Li tistudja on Campus l-University of Malta hija esperjenza mi=ll-aqwa. {web16} [that you-study on campus the-university of Malta she experience of=the-strongest] マルタ大学のキャンパスで学ぶことは最高の経験です。
[6-E]	○ ×	Li taf titkellem il-Malti hu l-vantaġġ prinċipali tiegħ=ek. {-} [that you-know you-speak the-Maltese he the-advantade main of=you (sg.)] あなたがマルタ語を話せることはあなたの主要なアドバンテージです。 Li taf titkellem il-Malti l-vantaġġ prinċipali tiegħ=ek. {-} [that you-know you-speak the-Maltese the-advantade main of=you (sg.)] あなたがマルタ語を話せることはあなたの主要なアドバンテージです。
[6-F]	○ ×	例文(7) Li tistudja l-Malti hu importanti. Li tistudja l-Malti importanti. {-} [that you (sg.)-study the-Maltese he important] マルタ語を学ぶことは重要です。
[6-G]	N	
[6-H]	N	
[6-I]	○	Li tistudja l-Malti hu li trid tkun taf il-kultura Maltija ukoll. {-} [that you (sg.)-study the-Maltese he that you (sg.)-want you (sg.)-are you (sg.)-know the-culture Maltese (f.) also] マルタ語を学ぶことはマ

		ルタの文化を知りたいということでもあります。
--	--	------------------------

この結果から（脚注 8, 10 にあるように絶対的ではないが）、分離代名詞の使用は次のような傾向がある。

- ①主語が人称代名詞：分離代名詞は使用されない（述語が [E（定冠詞付き名詞・接尾代名詞付き名詞）] の場合を除く）
- ②主語が指示代名詞：述語が [G（前置詞句）] の時を除き、おおむね分離代名詞が使用される。述語が [G（前置詞句）] の場合、分離代名詞が無いと前置詞句が先行する主語の名詞句の修飾部と解釈されやすい。
- ③主語が人称代名詞・指示代名詞以外：文が成立する場合は概ね分離代名詞が用いられる（恣意的な場合もある）。ただし、
 - ④述語が [B（指示代名詞）・C（固有名詞）・D（定冠詞無し名詞）・I（関係節・li 節）] の場合、分離代名詞の使用はほぼ義務的。このケースではいずれも分離代名詞が無いと主語と述語の境界が判別しづらく、とくに述語が [I（関係節・li 節）] の場合は述語であるか関係節・従属節であるかの区別が困難になる恐れがある。
 - ⑤述語が [E（定冠詞付き名詞・接尾代名詞付き名詞）・F（形容詞類）] の場合、分離代名詞の使用は恣意的。
- ④述語が [H（副詞句）]：分離代名詞は使用されない。

およそ Ambros の示した条件（脚注9）に合致するが、(4) の条件について該当しないケースも認められる。

2.3.4. 否定

無動詞文を否定にするときは否定代名詞の使用が義務的である。否定代名詞は、主語の性・数に応じて次のような形がある。歴史的には「ma（否定辞）＋人称代名詞＋=x（否定辞）」で構成されている。

	否定代名詞 ¹⁵⁾		参考：人称代名詞	
	sg.	pl.	sg.	pl.
3.m.	mhu=x	mhumic=x	hu	huma
3.f.	mhi=x		hi	
2.	m'inti=x	m'intom=x	inti	intom
1.	m'inie=x	m'ahnie=x	jiena	ahna

このうち 3.m.sg. の mhux は無標の否定代名詞として主語の性・数に関わりなく使うことができる。

15) 正書法上、1・2 人称の否定代名詞には m の後にアポストロフィを書く。

- (19) Jiena mhu=x student. {-}

I NEGhe=NEG student

私は学生ではありません。

- (20) Ahna mhu=x kuntenti. {-}

we NEGhe=NEG satisfied (pl.)

私達は満足していません。

以下は主語に応じた否定代名詞を用いた例である。

- (21) Int m'inti=x normali. {Korpus}

you (sg) NEG-you (sg)-NEG normal (m.)

あなたは普通ではない。

- (22) Doris mhi=x tfajla twila. {-}

Doris NEG-she=NEG girl tall (f.)

ドリスは背の高い女の子ではありません。

否定代名詞自体が人称代名詞の否定形なので、主語の人称代名詞の場合は省略可能である。

- (23) M'inie=x ghajjien. {-}

NEG-I=NEG tired

私は疲れていません。

- (24) M'ahnje=x kuntenti. {-}

NEG-we=NEG satisfied (pl.)

私達は満足していません。

2.3.5. 疑問詞を含む疑問文

原則として疑問詞は文頭に来るので述語が疑問詞の場合「述語（疑問詞¹⁶⁾—主語」の語順となる。

- (25) Fejn hu? {-}

where he

彼はどこですか？

- (26) Kif int? {-}

how you (sg.)

あなたはどのようなですか（＝お元気ですか）？

16) 前置詞を伴う疑問詞も可：「Ma' min int? {-} [with who you] あなたは誰と一緒にいますか？」。

述語が xi「何?」、kif「どのように?」の場合、主語が3人称の人称代名詞のときは inhu (m.), inhi (f.), inhuma (pl.) が用いられる。

(27) X'inhu?¹⁷⁾ {-}

what-he

それは何ですか?

(28) Kif inhi? {-}

how she

彼女はどのようなですか (=彼女はお元気ですか) ?

疑問詞を伴う前置詞は、疑問詞と共に文頭に移動する。

(29) Ma' min int? {-}

with who you (sg.)

あなたは誰と一緒にいますか?

(30) Karmena ma' min hi? {-}

Karmena with who she

カルメーナは誰と一緒にいますか?

2.3.6. 述語が場所を表す無動詞文

以下の例文は構造的には上記の無動詞文と同一だが、述語は主語の性質や状態ではなく、主語が存在する場所を表す。この時述語は場所を表す名詞ではあるが、前置詞を伴わない¹⁸⁾。

(31) Hija id-dar. {Borg & Azzopardi-Alexander (1997) 50}

my brother the-house

私の兄(弟)は家にいる(在宅である)。

(32) Martin mhux id-dar. {-}

Martin not the-house

マルティンは家にいません。

17) 通常は X'inhu? 単独では用いられず、「Dan x'inhu? [this (m.) what-he]/ X'inhu dan? {-} [what-he this (m.)] これは何ですか?」、「X'inhi d-differenza bejn rih u influwenza? {web17} [what-she the-difference between cold and influenza] 風邪とインフルエンザの違いは何ですか?」のように主語となる語を伴い、inhu, inhi, inhuma は分離代名詞として機能する。

18) Borg & Azzopardi-Alexander (1997) 50 では例文(31) と併せて「Hi=(j)a fid-dar. [brother=my in=the-house] 私の兄(弟)はその家にいる。」という述語が fi [in] による類似の文を挙げ、前置詞の有無で意味が異なるとしている。

この構造の無動詞文について Borg & Azzopardi-Alexander (1997) 50 は、「主語は人を表す名詞で述語は主語の人物がその場にいることが容易に予測できる場合」に成立するとしている（例えば「学生は教室にいる」「病人は病院にいる」など）。ただしその予測が及ぶ範囲はそれほど明白ではない。「部屋・台所・教室」のような空間については通常前置詞 *fi* または *go*¹⁹⁾ が用いられる。

(33) *Jiena fi=l-familja tiegh=i.*

I in=the-family of=me

私は自分の家族の中にいます。

上記の例文には存在を表す要素が無いが、以下の例文には「いる」を表す語 *qieghed* (動詞 *qaghad*「座る」の能動分詞) が用いられる。本論考では形態論的な観点から分詞は形容詞と同類とみなすので、無動詞文を構成する要素となる。*qieghed* の主語としてヒト、モノのいずれを置くことも可能である。

(34) *L-istudent qieghed fi=l-klassi. {web18}*

the-student sitting in=the-class

その学生は教室にいる²⁰⁾。

(35) *It-tieqa tal-kċina qieghda fuq is-sink tal-kċina. {web19}*

the-window of=the-kitchen sitting (f.) above the-sink of=the-kitchen

台所の窓は台所のシンクの上にあります。

2.4. 述語－主語の語順の無動詞文

無動詞文で主語が非限定名詞の場合はいわゆる「存在文」を構成し、統語的に次のような特徴を持つ。

- ① 述語は場所を表す副詞 (*hawn*「ここ」、*hemm*「あそこ」) または前置詞句 (*ghand*「～のところに」、*fi*「～の中に」) で構成される。前置詞には接尾代名詞が付くことが義務的であり、通常の前置詞のように名詞が続くことはない。
- ② 「述語－主語」が無標の語順となる。
- ③ 否定は主語と述語の間に否定辞を置くのではなく、述語となる副詞・前置詞句自体を否定する。

特に存在文で用いられる副詞・前置詞句は、動詞と同じ方法によって否定されることやその他の振る舞いから、これを「疑似動詞」と呼ぶ²¹⁾。

19) Cf. Eg. *guwwa* “inside” Hinds & Badawi (1986) 184, *Pal. juwwa* “inside, indoors”, Elihay (2004). マグリブ方言では一般的にこれと語源を同じくする前置詞は用いられない。

20) 「その学生はクラスで座っている。」とも解釈できるが、*qieghed* だけだと曖昧である。「座っている」と明示的に言うためには前置詞句 *bil-qieghda* [*bi=the-sitting* (noun)] を加え、*L-istudent qieghed bil-qieghda.* とする方法がある。

21) Peterson (2009) 187 は疑似動詞 (pseudo-verbs) として次のものを挙げている: *behsieb* ‘intend’,

更に述語が副詞の場合と前置詞句の場合とで統語的な特徴が多少異なるので以下では個別に議論する。

2.4.1. 述語が前置詞 (fi, ghand) 句による文

2.4.1.1. ghand “at”²²⁾

上述のとおり、存在文の述語となる前置詞は名詞に従えることができず、常に接尾代名詞と共に用いられる。否定は前置詞句を否定辞 *ma* と *=x* (接尾辞) を前後に置く。これは動詞の否定と同じ方法である²³⁾。

	sg.	pl.	否定	
			sg.	pl.
3.m.	ghand=u	ghand=hom	m'ghand=u=x	m'ghand=hom=x
3.f.	ghand=ha		m'ghand=hie=x	
2.	ghand=ek	ghand=kom	m'ghand=ek=x	m'ghand=kom=x
1.	ghand=i	ghand=na	m'ghand=i=x	m'ghand=nie=x

接尾代名詞は主語が存在する場を表す。これを述語として文頭に置き、主語となる名詞を後置して「(場) には (主語) がある」を意味する。特に接尾代名詞が人を表す場合は、「その人物に主語が存在する (= その人が主語 (となるもの) を所有する)」ことを表現するのでここでは接尾代名詞があらわすものを「所有者」とする²⁴⁾。

(36) Ghand=i karozza. {-}

at-me car

私には車がある (= 私は車を持っている)。

(37) M'ghand=i=x karozza. {-}

NEG-at=me=NEG car

私には車がありません。

前置詞の後に名詞を置くことはできない。

donn- ‘as if, like; appear’, fi- ‘contain’, ghad ‘still’ ghand- ‘POSS; OBLIG’, ghodd- ‘almost’, hemm ‘EXIST’, il- ‘for a long time’, jisem ‘be called, named’ koll- ‘full of; completely’ qis- ‘like’, wahd- ‘alone’.

22) ghand のグロス は Comrie (1982) p. 11 に倣い一律 at とする。なお、Aquilina (1987-1990) vol. 2 p. 967 では前置詞の語義として with or at the house of をあてている。

23) 「jaqbad {-} [he-seizes] 彼は掴んだ。」: 「ma jaqbad=x {-} [NEG-he-seizes=NEG] 彼は掴まなかった。」

24) 限定名詞を主語、ghand による前置詞句を述語とする無動詞文も当然可能である。「It-tifel ghand iz-ziju. {Borg (1988) 45} [the-boy at the-uncle] その男の子はおじさんのところにいる。」「Iċ-ċavetta ghand il-kaxxier. {Ibid.} [the-key at the-cashier] その鍵はレジ係のところにある」。ただしこの場合、ghand は疑似動詞ではないので、否定は表の否定形 (ma ...-x によるもの) ではなく ghand の前に否定辞 (mhux, mhix など) を置いて表現される。

- (38) *Ghand Martin karozza.
at Martin car

所有者を名詞で表現する場合は、まずその名詞を述べた後に対応する接尾代名詞を ghand に付ける²⁵⁾。

- (39) Martin ghand=u karozza. {-}
Martin at=him car

マルティンには車があります (=マルティンは車を持っています)。

- (40) Martin m'ghand=u=x karozza. {-}
Martin NEG-at=him=NEG car
マルティンには車がありません。

- (41) Din il-karozza ghand=ha tliet roti biss. {Borg (1988) 46}
this (f.) the-car at-it (f.) three wheel only
この車には車輪が 3 つしかありません。

マルタ語では他動詞の目的語が「ヒト」の時に前置詞 lil で表示されるが、ghand による所有文も、被所有物が「ヒト」の時に前置詞 lil で表示される²⁶⁾。この点にも ghand の動詞性が現れている。

- (42) Jiena ghand=i lil mart=i ta' 83 sena. {Korpus}
I at=me Prtcl wife=my of 83 year
私には 83 歳の妻がいます。

25) この前置詞句に先行する名詞は主題と考えることもできるが、ここでは ghand が名詞を従えることができないという統合上の制約があるため、その名詞を表示する場合、ghand につく代名詞が指示するものとして ghand 句の前に置くことになったものとする。Comrie (1982) p. 14 は ghand 句を「動詞」ととらえ、それに先行する名詞はその動詞の主語であるという説を提示している。例文 (42) のように「所有される」ものがヒトの場合、通常他動詞の目的語(ヒト)を示す前置詞 lil が用いられるのでこの説にも説得力がある (Peterson (2009) p. 190.)。

26) この lil はスペイン語の a に類似するが、マルタ語では目的語がヒト(や神)であれば限定・非限定問わず場合に限る: 「nghin lil Martin {-} [I-help PRTCL M.] 私はマルティンを助ける(限定)」、「... nghin lil haddiehor {web20} [I-help PRTCL anyone else] 私は(だれか)他人を助ける(非限定)」。ghand 句による無動詞文で主語が lil で表示される例としては以下の通り: 「Delia ghand=u lil Michael Farrugia. {web21} [D. at=him PRTCL M.F.] デリアにはマイケル・ファールージャがいる」、「Inhoss=ni xxurtjata li ghand=i lil=ha {web_22} [I-feel=me destined (f.) that at=me ACC-her] 彼女が私のところにいるのは運命だと感じている」。なお、話者が心理的に人とみなす場合はモノでも lil が用いられる例がある: 「Inhobb lil Malta. {-} [I-love PRTCL Malta] 私はマルタを愛する」。この ghand 句による所有文は、現代口語アラビア語でも広く用いられているが、特にシリア・パレスチナ方言では代名詞による主語を辞詞 iyya+接尾代名詞で表示する方策がある: 「iind=i yyā=h [at-me PRTCL=it (m.)] 私にはそれがある」。カイロ方言、マグリブ方言にはこのような代名詞による主語の表示は行われないようである。

3.2.1.2. fi

fi による存在文は構造的には ghand によるものと同一で「fi+接尾代名詞+主語」となる。ただし、この場合、ghand 句で言う「所有者」は一般的にはモノに限定されるので、fi に付く接尾代名詞は通常 3 人称となる²⁷⁾。fi による存在文は、主語となる名詞は fi で示される抽象的・具体的な空間の「中」に存在することを表現する。否定は ghand と同様前置詞句を否定辞 ma と =x (接尾辞) を前後に置く。

	sg.	pl.	否定	
			sg.	pl.
3.m.	fi=h	fi=hom	ma fi=h=x	ma fi=hom=x
3.f.	fi=ha		ma fih=ie=x	
2.	(fi=k)	(fi=kom)	(ma fi=k=x)	(ma fi=kom=x)
1.	(fi=ni) ²⁸⁾	(fi=na)	(ma fi=ni=x)	(ma fi=nie=x)

- (43) Il-vokabularju jew lessiku ta=l-Malti fi=h hafna kliem Rumanz
the-vocabulary or lexicon of=the-Maltese in=it (m.) many words Romance
u Anglosassonu. {Cachia (1994) 9}
and Anglosaxon
マルタ語の語彙や単語集には多くのロマンス系、アングロサクソン系の語があります。

- (44) Din il-paġna fi=ha menu fuq ix-xellug {Korpus}
this (m.) the-page in=it (f.) menu on the-left
このページは左側にメニューがあります。

- (45) Dan ix- xogħol ma fi=h=x tiġrib għaliġa {Korpus}
this (m.) the-work NEG in=it (m.)=NEG experience for-me
この仕事は私にとって経験となりません。

- (46) Id- diskorsi tiegħ=u ma fi=hom=x retorika {Korpus}
the-discourses of=him NEG-in=them=NEG rhetoric
彼の談話にはレトリックがありません。

次の文では場所を表す用語が後方で照応されている。

- (47) Fi=ha hafna xogħol biex tagħmel din il-wirja.

27) ヒトが主語のケースも見られるが、現代マルタ語では定型句に残るのみで生産的な構文とは言えないので本論考では扱わない。Aquilina (1987-1990) vol. 1, 333 で多くの定型句を示している。例えば「a fi=ni xejn [NEG in=me nothing] 私は体つきが華奢だ（直訳は「私の中には何もない」）」など。

28) 前置詞に付く 1 人称単数の接尾代名詞は -i, -ja (fi=ja [in=me]) だが、疑似動詞には動詞の目的語として用いられる接尾代名詞 =ni が用いられ fi=ni となる。

{web23}

in=it (f. = il-wirja) many work in-order-to you (sg.)-make this (f.) the-exhibition
この展覧会を実施するためにはたくさんの業務があります。

2.4.2. 述語が副詞 hemm, hawn による文

hawn「ここ」、hemm「あそこ」はいずれも場所を表す副詞で²⁹⁾、英語の there、アラビア語の hunāka と同様、存在文を導く機能を持つ³⁰⁾。

これらの副詞も否定は動詞の否定と同じ方法によって否定される。

	hawn	hemm
否定	m'hawn=x	m'hemm=x

このタイプの文は主語の性質に応じて2種類ある。

2.4.2.1. 主語が非限定名詞

(48) Hemm xi hağa tajba.

there some thing good (f.)

良いものがあります。

(49) Fil-kamra ta=l-ikel hemm sajdbord wiehed biss. {web19}

in-the-room of=the-eating there sideboard one only

食堂には食器棚が1つだけあります。

存在文を導く副詞としては hemm が無標で、特に存在するものが物理的・心理的に話者の近くに存在する場合³¹⁾は hawn「ここ」を使うことがある。

(50) L-ewwel nett hawn hağa stramba f'din il-liġi {Kumitat Permanenti: 16}

the-first most here thing strange in-this the-law

まず、この法律には奇妙なことがあります。

hemm, hawn は実際に場所を示すこともできる。以下の文は文脈によっては単に「多くの人がいる。」ではなく「ここに多くの人がいる。」を表す。

(51) Hawn hafna nies. {web24}

29) hemm (cf. Ar(abic). ṭamma), hawn (cf. Ar. hā hunā).

30) チュニジア、リビアなど北アフリカ東部の現代アラビア語方言でも遠方指示の副詞が存在文を導く: Tunis Muslim ṭamma, Tripoli Jewish čemma (cf. Ar. ṭammata).

31) 例えば自分が居住する土地について言う場合は hawn が用いられる傾向がある。「... ghax f'Malta hawn popolazzjoni kbira wisq ghal=l-gżira. {Korpus} [... because in-Malta here population large very for=the-island] というのもマルタには島のわりには大きな人口があるからである。」「Malta hawn hafna nies li ... {Borg (1988) 45} [Malta here many people who...] マルタは・・・するたくさんの人がある」。

here many people
ここには人がたくさんいます。

- (52) M'hemm=x mod absolut {Korpus}
NEG-there=NEG way absolute
絶対的な方法はありません。

- (53) M'hawn=x hafna traffiku fi=t-triq. {Borg & Azzopardi-A. (1997) 89}
NEG-here=NEG much traffic in=the-road
道はそれほど渋滞していません。

- (54) X'hemm fi=l-veranda? {Korpus}
what-there in=the veranda
ベランダに何がありますか？

2.4.2.2. 主語が限定名詞

構造としては存在文と同様だが、主語が定冠詞付きの名詞の場合がある。

- (55) U fost l-iktar fuq nett, nett hemm l-ghalliema.
{web25}
and amongst the-most abov-e most, most (= topmost) there the-teachers
そしてそのトップのトップに教師がいます。

- (56) Qrib il- Palestina hemm il-gżira ta' Ċipru {Korpus}
closeness the-Palestine there the-island of Cyprus³²⁾
パレスチナの近くにキプロス島があります。

- (57) Mhux neċessarjament għax m'hemm=x il-missier f'hajjit=hom tifel
not necessarily because NEG-there=NEG the-father in-life=their boy
jew tifla se jitrabbew ħazin. {Korpus}
or girl will be-educated bad
人生に父親がいないからと言って男の子や女の子が必ずしも悪い教育がなされるというわけではありません。

- (58) Hemm il-ħtieġa li nsacqu tlieta darbiet matul
there the-necessity that we-water three times during
il-gimgha. {Korpus}

32) Qrib は名詞「近さ」。

the-week

週に3回水をやる必要があります。

(59) M'hemm=x il-fliexken ta=x- xorb fi=l-basket? {Korpus}

NEG-there=NEG the-bottle of=the-drink in=the-basket

籠の中にその飲み物のビンはありませんか？

様々な文脈があるが、(55) は「多数あるうちの中に（多数あるうちのその上に・後に）～がある・いる」³³⁾、(56) は「ある場所・時間について言及し、そこに存在するものとして示す」ような場合³⁴⁾である。また (55), (57) で定冠詞の付いた名詞 (l-ghalliem, l-missier) は聞き手（読者）にとって既知の存在としての具体的な人物ではなく、学生・裁判官・会社員などと並び立つ職業の種類や概念としての「教師というもの」、「父親というもの」を表しているようである。また、(57) では所有者が非限定なので ghand- による存在文の所有者とはなりえない。(58) では、主語が il-htiega「必要性」という抽象名詞であり、この場合具体的に「存在」するための「場」は必要なく、存在それ自体が表現できれば十分である。主語は限定名詞なので「主語－述語」の無動詞文を構成することもできるが、「場」が存在しない、即ち述語が空となり、文として成立しない。(59) の il-fliexken はおそらく reminder 機能－話者が聞き手の意識内で既に既知であると認識しているもの談話に再導入する－をもつものである³⁵⁾。

3. 結語

本論考で扱った動詞を用いない文構造、無動詞文はアラビア語から受け継いだものではあるが、マルタ語では独自の表現法が発展した。主語が限定名詞からなる無動詞文では主語と述語の性質によって分離代名詞の用法が義務的となる場合がある。この点について 2.3.3. で一覧表にしたが、脚注12 で示したように述語が名詞のみの場合と修飾語が付いた場合とで分離代名詞の分布が異なる場合もあり、また強調その他の要素によっても幅があるなど、解明すべき点は多い。分裂文なども含めて今後より詳細な研究が必要である。

無動詞文の一種としての存在文の構造にも触れた。存在文では通常非限定名詞が主語となるが、限定名詞も主語となりえる。部分的にその条件を特定することができたが、より広範なデータを用いてその条件を一般化することが残された課題の一つである。

33) 他にも「Fuq dawn hemm il-kowč Portugiž {Kopurs} [above those there the-coach Portuguese] 彼らに加えてポルトガル人コーチがいる。」「Din is-sena m'hemm=x il-Karnival. {web26} [this the-year NEG-there=NEG the-carnival] 今年はカーニバルがない。」など。

34) 他にも「Fil- Libja m'hemm=x il-faqar {Kopurs} [in Libia NEG-there=NEG the-poverty] リビアには貧困はない。」など。

35) 友繁 (2017) 174-175。

[参考文献]

- 友繁義典「There 存在文における定表現再考」『兵庫県立大学環境人間学部研究報告』
19 (2019) 169-179.
- Ambros, A.A. *Bongornu, kif int? – Einführung in die maltesische Sprache* (Wiesbaden 1998).
Aquilina, G. *L-Ikkundannata u drammi oħra* (Malta 1973).
Aquilina, J. *Maltese-English Dictionary* 2 vols. (Malta 1987-1990).
Badawi, E. et. al. *Modern Written Arabic – A Comprehensive Grammar* (Routledge 2004).
Borg, A. *Ilsienna – Studju Grammatikali* (Malta 1988).
Borg, A. & M.Azzopardi-Alexander, *Maltese* (Routledge 1997).
Cachia, L. *L-ilsien Malti – il-bieraħ u l-lum*. (Malta 1994).
Comrie, B. “Syntactic-Morphological Discrepancies in Maltese Sentence Structure” in *Problems in Syntax*, eds. L. Tasmowski, D. Willems (New York 1983).
Elihay, *The Olive Tree Dictionary – A Transliterated Dictionary of Conversational Eastern Arabic (Palestinian)* (Jerusalem 2004).
Fischer, W. translated by J.Rodgers, *A Grammar of Classical Arabic* 3rd revised edition (New Haven & London 2002).
Grech, R. *Hajja Ġdida għal Maria* (Malta 2014).
Għaqda Biblika, *Il-Bibbja – Il-Kotba Mqaddsa* (Malta 1984).
Kumitat Permanenti għall-Konsiderazzjoni ta’ Abbozzi ta’ Ligi (Rapport Uffiċjali u Rivedut), it-Tlettax-il Parlament, Laqgħa Nru 122, It-Tlieta, 20 ta’ April, 2021, Stampat fl-Uffiċċju tal-Iskrivan Kamra tad-Deputati, Malta.
Hinds, M. & S.Badawi, *A dictionary of Egyptian Arabic : Arabic-English* (Beirut 1986).
Joūn, P. & T.Muraoka, *A Grammar of Biblical Hebrew* 5th reprint of the 2nd edition (Roma 2018).
Krier, F. “Analyse syntaxique de la phrase nominale en maltais” *La Linguistique* (1975) 93-116.
Nöldeke, Th., translated by J.A. Crichton, *Compendious Syriac Grammar* (Winona Lake, Indiana 2001).
[NT] *Il-Bibbja* 「新約聖書」の部
Peterson, J. ““Pseudo-verbs”: An analysis of non-verbal (co-)predication in Maltese” in B.Comrie et. al. eds. *Introducing Maltese Linguistics – Selected papers from the 1st International Conference on Maltese Linguistics, Bremen, 18-20 October, 2007* (Amsterdam / Philadelphia 2009) 181-206.
Vanhove, M. *La langue maltaise – Etudes syntaxiques d’un dialecte arabe >périphérique<* (Wiesbaden 1993).
Wright, W. *A Grammar of the Arabic Language*, vol. I and II (Cambridge 1896-1898).
- web からの出典
Korpus :Korpus Malti, <https://mlrs.research.um.edu.mt/CQPweb/>
web1 :<https://riformakostitutzzjonali.gov.mt/dokumenti/il-kostitutzzjoni-ta-malta/>
web2 :<https://www.smashyouagainstthewall.com/index2.html>
web3 :<https://newsbook.com.mt/il-knisja-kattolika-l-unika-organizzazzjoni-kredibbli-fis-sudan-tisfel/>
web4 :<https://www.um.edu.mt/library/oar/bitstream/123456789/64426/7/Forsi...xi%20darba.pdf>
web5 :<http://www.kunsilltalmalti.gov.mt/mistoqsijiet?id=188>
web6 :Facebook “The People of Malta” 2017/07/14.
web7 :<https://behold.mt/talba-bil-kelma/jiena-hu-l-hobz-tal-hajja-li-nizel-mis-sema/>
web8 :<https://netnews.com.mt/2022/01/29/dan-hu-l-ewwel-pass-biex-nikkompetu-dino-zammit-plejer-ta-sliema/>
web9 :<https://knisja.mt/il-papa-fl-angelus-jirringrazzja-lill-haddiema-tas-sahha-ghall-eroizmu-li-jwettqu-ta-kuljum/>
web10 :<https://talk.mt/tispikka-l-fiducja-frobert-abela/>
web11 :<https://bdlbooks.com/sena-ta-drill-hrug-u-privatijiet/>

- web12 :<https://knisja.mt/fdawn-il-jjem-nakkumpanjaw-il-mulej-li-gej-fostna-l-arcisqof/>
- web13 :https://www.illum.com.mt/ahbarijiet/politika/49097/_lewropa_trid_tif-hem_li_anke_dawk_li_jgixu_filperiferiji_gandhom_leen_ian_borg#.YjhtjDVUtGM
- web14 :<https://www.j2e.com/?id=UFo1TXdJRVJQRjRkU2hzcA==&wp&blog=-1&revision=1>
- web15 :<https://www.facebook.com/181407188699604/posts/l-importanti-hu-li-dak-li-jigi-maqbul-jigi-attwat/942254962614819/>
- web16 :<https://www.facebook.com/sergmallia/photos/a.317584132403275/825024101659273/?type=3>
- web17 :<https://newsbook.com.mt/xinhi-d-differenza-bejn-rih-u-influwenza/>
- web18 :<https://ecourts.gov.mt/onlineServices/Judgements/PrintPdf?JudgementId=0&CaseJudgementId=40538>
- web19 :https://curriculumcms.gov.mt/en/Examination-Papers/Secondary-Papers/2016/Documents/Geography/Geography%20-%20Form%201/geography_fl_gen_2016_mv.pdf
- web20 :<https://www.crpdc.org.mt/mt/xrara-ta-indipendenza-ta-clifford-portelli-spinal-cord-injury-day-2021/>
- web21 :<https://newsbook.com.mt/delia-ghandu-lil-michael-farrugia-muscat-ghandu-lil-kristy/>
- web22 :<https://tvmnews.mt/news/ara-ic-ckejkna-francesca-titbissem-lid-dinja-u-taghti-kuragg-lit-tfal-bid-syndrome/>
- web23 :<https://www.facebook.com/thepeopleofmalta/photos/fiha-%C4%A7afna-xog%C4%A7ol-biex-tag%C4%A7mel-din-il-wirja-is-sodisfazzjon-qabel-xejn-huwa-g%C4%A7al/1037127403055417/>
- web24 :<https://www.facebook.com/thepeopleofmalta/posts/3806612062773590>
- web25 :https://www.illum.com.mt/opinjoni/politika/61651/saviour_balzan_la_tmisshomx#.YkHIqDVUtGM
- web26 :<https://www.j2e.com/?id=MXFheXJDNFBqWFpTVEhrYw==&wp&blog=2&revision=3>